

令和7年度 厚生委員会行政視察報告書

厚生委員会
委員長 松尾 茂

1 視察期間

令和7年11月4日（火）

2 視察先及び視察事項

富山市角川介護予防センター
「介護予防の取組について」

3 視察参加委員

| | | |
|------|----|----|
| 委員長 | 松尾 | 茂 |
| 副委員長 | 飯山 | 勝彦 |
| 委 員 | 木地 | 智美 |
| // | 久保 | 大憲 |
| // | 岡部 | 享 |
| // | 押田 | 大祐 |
| // | 高道 | 秋彦 |
| // | 谷口 | 寿一 |
| // | 市田 | 龍一 |
| // | 橋本 | 雅雄 |

4 随行職員

議事調査課副主幹 谷端 裕美子
議事調査課主査 竹之内 慧

5 観察概要

(1) 観察事項

- ・介護予防の取組について

(2) 観察の目的

高齢化社会の進行により、要介護・要支援認定者数や介護サービスの利用者数は年々増加している。今後、高齢者人口がピークを迎える、介護や医療の需要が急増する見込みであり、国や地方自治体の財政負担の増大や介護・医療業界の人材不足などの問題が深刻化することが予想される。

このような状況下において、要介護・要支援の状態になることを防ぎ、個々人が身体機能を維持するための運動などに継続的に取り組める環境を提供することは極めて重要であり、社会全体の活力維持にもつながる。

本市では、介護予防の拠点施設として富山市角川介護予防センターを整備し、温泉を活用した介護予防事業や介護予防の調査・研究などを行っている。当該施設の取組、課題等を観察し、今後の委員会活動の参考とするものである。

(3) 取組の概要

富山市角川介護予防センターでは、40歳からの健康づくりとして介護予防の取組を実施しており、自立した日常生活を送ることができるようにするために、加齢に伴う体力低下の防止、身体機能の維持・向上を図るとともに、外出、交流の機会を提供している。

施設内には、多機能温泉プールや温熱療法室、パーソナルケア室、パワリハ室、トレーニング室などを備えている。温泉水を活用した運動療法や温熱療法、パワーリハビリテーションなどの各種プログラムは本施設の大きな特徴であり、利用者に運動の楽しさ、外出の楽しさ、交流の楽しさを実感してもらうことで介護予防の動機づけを行っている。

年末年始及び施設メンテナンスによる休館日を除き、毎日午前9時30分から午後9時まで営業しており、運動温泉会員になれば、好きな時間に何度も利用することができる。

また、基本事業として、3か月を1クールとしたQOLツアーリーを実施している。参加者には、初回利用時に医師による問診やバイタルチェック、体組成測定などの基礎測定後、5メートル歩行測定、TUGテスト、握力測定、30秒立ち上がりテスト、長座位体前屈測定、ファンクショナルリーチテストの6つの体力測定を受けてもらう。その結果から総合評価を行った上で、その人に適したプランを作成し、各種プログラムに参加してもらっている。中間、最終回前にも6つの体力測定を受けてもらい総合評価を行うことで、各種プログラムによる運動機能の改善状況をフィードバックし、健康意識、運動意欲の向上につなげているとのことであった。

今後も施設を継続的に運営していくためには、より多くの市民に利用してもらい稼働率を上げていくことが重要である。現在の利用者の平均年齢は高い状況であり、効果的な広報活動を行い幅広く利用者を獲得していくなければならない。また、計画的な設備更新などの施設の老朽化対策についても考えていく必要がある。

(4) 所感

〔松尾委員長〕

高齢者の体力低下を防ぎ、身体機能の維持・向上を図る責務を担っている施設であり、今後も富山市角川介護予防センターが介護予防の拠点として機能を発揮し続けるためには、単なるプログラムの提供にとどまらず、その効果の検証、改善が必要だと考える。また、施設を積極的にPRするなど、さらなる利用を促進する必要がある。加えて、施設の老朽化による修繕等も計画性を持って検討するべきである。

市民が自ら取り組む介護予防を支援することにより、高齢者等の外出機会を創出し、自立した日常生活を促すという施設の役割を最大限に発揮できるように努めるべきだと考える。

〔飯山副委員長〕

本施設では、温泉を活用した本格的な温熱療法や多機能温泉プールでの水中運動、陸上運動を行いながら介護予防に取り組んでいる。また、医師が常駐しており生活習慣病予防の相談なども行っている。

今回の視察では、脳トレと運動を組み合わせたエクササイズであるライフキネティックを体験させてもらった。体を動かし脳を使う運動ということで、とても難しいトレーニングであったが、楽しく取り組むことができた。中高年の注意力と理解力の向上、記憶力の低下予防などの効果があるとのことであった。

昨年、利用者が100万人を超えたが、利用者の平均年齢は77歳であるため、いろいろな年代の方、特に若年層の利用を広げていきたいとのことであった。私も一度、無料体験会に参加しようと思う。

〔木地委員〕

予防医学が進んでいるドイツの施設を参考に造られた多機能温泉プールと、医師による医学的な視点からの自らの生きる力を高める指導がユニークな施設である。継続的に利用することで、体力や筋力の向上が見られることがデータでも明らかになっている。

施設の名称に「介護予防」という言葉が入っていることから、利用できる人が高齢者に限定されていると思われているようなので、40代から誰でも利用できることを広く広報するべきだと思う。名称変更も1つの方法である。

また、薬膳や漢方とも通じる考え方の魅力があるので、自宅でできるライフキネティック動画など、考え方のエッセンスを広報し、自宅で取り入れてもらう方法もあるのではないかと感じた。

〔久保委員〕

富山市角川介護予防センターの視察は二度目だったが、現在の課題を改めて認識することができた。特に老朽化が進む設備は計画的な更新が必要であり、基金の積立ても不十分である。大規模な修繕が発生した場合、市として大きな負担が生じる懸念があるため注視していきたいと思う。

また、40代や50代にも利用を促したいという施設側の思いは理解できるものの、ホームページに掲載している写真や構成、設備、プログラムが高齢者向けとなっており、施設のコンセプトについて再考する必要があると感じた。

〔岡部委員〕

介護予防を専門に行う施設である富山市角川介護予防センターを視察し、経験豊富な館長から施設の概要や目的について流れるような説明を受けた。温泉水を活用した水中運動や温熱療法、陸上運動などの現場を見学し、多くの利用者が楽しそうに運動に励んでおられた。また、本施設には医師が常駐しており、医学的な管理の下、1日当たり約240人、年間約8万人の方が介護予防や生活習慣病予防に取り組んでいる。しかし、まだまだ利用者を受け入れることができるとのことであった。

〔押田委員〕

富山市角川介護予防センターには、医師が常駐しており、医学的見地を重視した体力測定やメニュー選択を行っている。昨年、利用者が100万人を超え、富山市民の健康づくりに大きな成果を上げている。

気になったことが、利用者の平均年齢が77歳となっている点だ。パンフレットには40歳から利用できると記載されているが、なかなか浸透していないようだ。若者には高齢者向け施設だと認識されているのではないか。そうならないためのPRやメニューづくりを充実させていくべきだろう。

また、開館から14年が経過し、施設の老朽化もちらほらと聞こえつつある。

施設を改修する場合には、施設名の変更や、40歳代、50歳代をターゲットにした仕掛けも必要ではないかと考える。

〔高道委員〕

富山市角川介護予防センターは、平成23年7月に介護予防を専門に行う施設としてオープンした。14年が経過し、細かな修繕を行って運営を続けているが、設備の老朽化は進んでいる。

常駐医師による管理の下、水中運動や温熱療法、パワーリハビリテーションを通して、介護予防や生活習慣病予防に取り組んでいる。また、軽度認知障害（MCI）を予防する取組としてライフキネティックを採用し、脳を活性化するプログラムも実施している。

このような新たな取組を積極的に取り入れ、健康寿命を延伸するためにも、新規利用者の拡充策や、施設・設備の計画的な更新を検討すべきだと感じた。

〔谷口委員〕

富山市角川介護予防センターは、介護予防に役立つ施設として多くの方に利用されてきているが、開設から14年が過ぎセンサーの不具合や経年劣化による修繕が必要となってきている。現在のところ、大規模改修等は必要ないと思われるが、今から備えておく必要があると感じた。

館長が、多くの方に利用していただくためには口コミが一番効果的だとおっしゃっていたので、今後のPR方法を検討する必要があると思う。また、施設の名称に「介護予防」という言葉が入っていることで利用をためらう方もいるとのことなので、今後、名称の変更等も検討していく必要があると思う。

〔市田委員〕

富山市角川介護予防センターは高齢者の介護予防及び健康づくりを推進することを目的として建設された施設で、当時、角川 文子さんが夫の遺志を受け、富山市の福祉に役立ててほしいと4億円もの寄附を頂いたことにより実現したものだと記憶している。本施設のオープン時には、私自身も施設を体験し、その効果などについて積極的にPRを行ったことを懐かしく思い出している。

これまでに延べ100万人以上の方々が利用したとのことで、長年にわたり施設の役割を十分に果たしていることを実感した。特に、温泉水を活用したプールでは、その特性を利用した多様な水中運動プログラムが提供されており、多くの利用者が楽しみながら参加されていたことが印象的であった。

また、今回の視察では、陸上運動の一環として、脳トレーニングと身体運動を組み合わせたエクササイズを体験した。言葉と運動を組み合わせることで認知機能や身体機能の向上を図るもので、ライフキネティックと呼ばれる健康長寿のための取組の1つであり、大変有意義な内容であった。

一方で、開設から14年が経過し、日々運営を続ける中で、施設の修繕や設備更新などの必要性も高まっていると伺った。特に温水プールなどの水回りは、温水装置、ろ過装置などのメンテナンスや改修に多額の費用を要するため、今後の設備更新に必要な予算を計画的に確保することが重要であると考える。

〔橋本委員〕

富山市角川介護予防センターは平成23年7月にオープンした。オープン時に施設を体験する機会をいただき、その後も何度か訪れていた。施設が提供するサービスについては分かっているつもりでいたし、ここは高齢者が利用する施設だと決めつけていた。実際は40歳以上の方が利用でき、体に不都合があるのかどうかも関係ない。私の知識不足ではあるが、多くの市民の方々も同じように認識されているのではないかと思う。

今回の視察で施設の意義を改めて感じている。施設の役割を正しく周知し、施設改修に努めるなど市民の健康づくりにつなげたい。

令和7年11月4日（火）富山市角川介護予防センター

